

# わが国におけるヴィゴツキー翻訳図書目録 ー日本でヴィゴツキーはどのように紹介されてきたかー

上 野 美智子\*・ 広 瀬 信 雄\*\*

## I. はじめに

レフ・セミョーノヴィッチ・ヴィゴツキー（1896-1934）の著作が、国内的に知られるようになったのは、フルシチョフによるスターリン批判（1953）の後である。したがってヴィゴツキー本人は自著を手にとったことがなかったと言ってもよいだろう。多くの芸術家、科学者、社会活動家が、スターリンによって政敵とみなされた不幸な時代をこえて、また自身の家族病であった肺結核の苦しみをのりこえて書かれた著者は100年後も我々に新しいことを教えてくれる。

英訳を除けば、日本は、その関係者が最も早くから彼の著作を手にすることができた「外国」の一つである。再評価・再々評価が世界的に行われ、『ネオ・ヴィゴツキヤン』らが新しい研究を発表する時代になったが、原著の役割と意義は、不変であろう。ともすれば、「自分に都合のいい所だけ引用する。」ような最近の心理学界は批判されるべきである。この天才の著作をなるべく原著に近いものから、読んでみるのが重要である。

今回、日本で出版されたヴィゴツキー著作の邦訳をすべて入手することができた。ヴィゴツキーの全著作からすれば、まだ一部としか言えないが、日本語で接することができるのは幸せといえるだろう。

ここでは、資料として、それぞれの出版物の解題を試みる。

なお、原著の邦訳以外の、関連書、伝記等は、機会を改めて資料化することにする。

以下にわが国で発行された、ヴィゴツキーの原著訳（すべてロシア語版からの訳）を呈示する。

## II. ヴィゴツキー翻訳図書目録

	邦 訳 書	訳 者	出版社	発行年	備考
1	『思考と言語』上	柴田義松	明治図書	1962	絶版

---

\* 山梨大学大学院教育学研究科

\*\* 山梨大学教育人間科学部障害児教育講座（現：教育支援科学講座）

2	『思考と言語』下	柴田義松	明治図書	1962	絶版
3	『除村吉太郎指導ロシヤ語対訳シリーズ1 ヴィゴツキー精神発達論』	柴田義松（訳注）	明治図書	1964	絶版
4	『ヴィゴツキー 精神発達の理論』	柴田義松	明治図書	1970	絶版
5	『ハムレット その言葉と沈黙』	峯 敏夫	国分社	1970	絶版
6	『芸術心理学』	柴田義松	明治図書	1971	絶版
7	『子どもの想像力と創造』	福井研介	新読書社	1972	絶版
8	『子どもの知的発達と教授』	柴田義松, 森岡修一	明治図書	1975	絶版
9	『児童心理学講義』	柴田義松, 森岡修一	明治図書	1976	絶版
10	『ヴィゴツキー障害児発達論集』	大井清吉, 菅田洋一郎	ぶどう社	1982	絶版
11	『寓話・小説・ドラマ その心理学』	峯 敏夫	国分社	1982	絶版
12	『心理学の危機』	柴田義松, 森岡修一, 藤本卓	明治図書	1987	絶版
13	『人間行動の発達過程 猿・原始人・こども』 ルリヤ共著	大井清吉, 渡辺健治 （監訳）	明治図書	1987	絶版
14	『ごっこ遊びの世界—虚構場面の創造と乳幼児の発達』	神谷栄司	法政出版	1989	絶版
15	『子どもの想像力と創造』	福井研介	新読書社	1992	絶版
16	『子どもの心はつくられる・ヴィゴツキー心理学講義』	菅田洋一郎（監訳）, 広瀬信雄	新読書社	2000	絶版
17	『新訳版思考と言語』	柴田義松	新読書社	2001	
18	『普及版子どもの心はつくられる・ヴィゴツキー心理学講義』	菅田洋一郎（監訳）, 広瀬信雄	新読書社	2002	
19	『新児童心理学講義』	柴田義松, 宮坂瑠子	新読書社	2002	
20	『新訳版子どもの想像力と創造』	広瀬信雄, 福井研介 （訳注）	新読書社	2002	
21	『「発達の最近接領域」の理論—教授・学習過程における子どもの発達』	土井捷三, 神谷栄司	三学出版	2003	
22	『ヴィゴツキー思春期の心理学』	柴田義松, 森岡修一, 中村和夫	新読書社	2004	

23	『ヴィゴツキー教育心理学講義』	柴田義松, 宮坂琇子	新読書社	2005	
24	『文化的一歴史的な精神発達の理論』	柴田義松 (監訳)	学文社	2005	
25	『記号としての文化 発達心理学と芸術心理学』	柳町祐子, 高柳聡子	水声社	2006	
26	『ヴィゴツキー障害児発達・教育論集』	柴田義松, 宮坂琇子	新読書社	2006	
27	『最後の手稿 情動の理論—心身をめぐるデカルト, スピノザとの対話』	神谷栄司, 土井捷三, 伊藤美和子, 竹内伸宜, 西本有逸	三学出版	2006	
28	『新訳版芸術心理学』	柴田義松	学文社	2006	
29	『ヴィゴツキー心理学論集』	柴田義松, 宮坂琇子	学文社	2008	
30	『「人格発達」の理論 子どもの具体心理学』	土井捷三, 神谷栄司 (監訳) 伊藤美和子, 西本有逸, 竹岡史朗, 堀村志をり	三学出版	2012	

### Ⅲ. ヴィゴツキー翻訳図書詳細

#### 1. 『思考と言語』上

年代1934年, 判型A5判, 292頁, 価格750円

原文 『思考と言語』

日本で最初のヴィゴツキー翻訳本である。この本はヴィゴツキー最後の著作でもある。印刷版数は、29版におよんでいる。言葉という記号は、人間だけに与えられた「精神的生産の道具」の特権であり、これを媒介して高次精神活動が行われる。この理論がヴィゴツキーの永遠の命題「思考と言語」の関係である。この命題についての問いを心理学的に力説した。心理学を専門とする人々だけではなく、多くの教育関係者を中心に、読まれたヴィゴツキーの主著であり、世界的名著である。

#### 2. 『思考と言語』下

年代1934年, 判型A5判, 292頁, 価格750円

原文 『思考と言語』

『思考と言語』は、ヴィゴツキーの教育的理論、科学的概念と生活的概念の比較研究、思考活動における言葉の意味の機能的役割の解明について論じる。

### 3. 『除村吉太郎指導ロシア語対訳シリーズ1ヴィゴツキー精神発達論』

年代1935年，78頁，価格400円

原文 「教授過程における子どもの知的発達」

原文に収録されている論文「学齢期における子どもの知能の発達と教育の問題」の対訳本として，大学生向けロシア語の学習・ヴィゴツキー研究およびソビエト科学の学びを把握することを目指した教本である。

### 4. 『ヴィゴツキー 精神発達の理論』

年代1930年～1931年，判型A5判，243頁，価格950円

原文 『高次精神機能の発達史』全訳

ヴィゴツキーの命題の一つである高次精神機能の理論について論じる。

### 5. 『ハムレット その言葉と沈黙』

年代1925年・1930年～1931年，判型A5判，321頁，価格1500円

原文 「デンマークの王子ハムレットについての悲劇」

卒業論文としてハムレット論最初の著作1915年～1916年に書かれた。「イスクーストヴォ」出版所から，1965年に初版・1968再版され原書巻末に『ハムレット論』が収録されている。シェイクスピアの四大悲劇の一つ「ハムレット」は，地球上に多くの論者が存在する。ヴィゴツキーもそのひとりであり，悲劇を心理学的側面の感情的矛盾と形式による内容の克服を試みたハムレット論である。

### 6. 『芸術心理学』

年代1915年～1916年，判型菊判，369頁，価格3000円（税抜き）

原文 『芸術心理学』の全訳

芸術から生じる感情の複雑な変化がおきてその結果カタルシス（精神浄化）が，発生する過程をクルイロフの作品や「ハムレット」などで感情的矛盾感覚を説明しつつ，芸術作品の構造分析を心理学の領域で論じている。ヴィゴツキー最初の著書であり，芸術に関する最後の書籍である。

### 7. 『子どもの想像力と創造』

年代1930年（初版）・1967年（再版），判型B6判，184頁，価格600円

原文 『子どもの想像力と創造』

幼児期から青年期における想像と創造の仕組みを文学や芸術でわかりやすく解説する。記載されている浮浪児の作文・子どもの描画が心に迫る。教育者や親になる前に，熟読すべき指南書である。

## 8. 『子どもの知的発達と教授』

年代1935年，判型A5判，217頁，価格2000円

原文 『教授過程における子どもの知的発達』

思考と言語は，子どもの知的発達に過大な影響を生じさせる。ヴィゴツキー理論を力説しつつ，障害学者でもあるヴィゴツキーが知的障害児問題，子どもの発達について論じる。

## 9. 『児童心理学講義』

年代1932年～1934年，判型A5判，234頁，価格2200円

原文 「子どもの発達の年齢区分の問題」『心理学の諸問題』1972年 第2号

「子どもの精神発達における遊びとその役割」『心理学の諸問題』1966年 第6号

「子どもにおける注意の高次の形式の発達」

『マルクス主義的教育学の諸問題』1929年

『ヴィゴツキー心理学選集』1958年（再録）

「心理学講義」『高次精神機能の発達』1960年

ヴィゴツキーは，就学前の子どもにおいて「遊び」は，主導的役割であると主張しつつ，子どもの発達の源泉であり，発達の最近接領域をつくりだすと主張している。児童学・発達心理学から，子どもの精神発達を論じる。

## 10. 『ヴィゴツキー障害児発達論集』

年代下記記載，判型B6判，314頁，価格2400円

原文 「子どもの欠陥性の心理学と教育学について」雑誌

『欠陥学』1974年 3号 5～30頁，71～76頁 一部省略

「身体的欠陥児の教育原理」

1924年12月未成年者の社会的権利保護第2大会における報告

『国民教育』1925年 1号 112～120頁 モスクワ教育人民委員部

社会権利保護部出版1926年 7～22頁 第2版

「欠陥と超補償」「知能遅滞，盲，聾啞」『盲を清算せよ』1927年 51～76頁

序文 「重度遅滞児の養育と教授」（イエ・カ・グラチューワ）

『重度遅滞児の養育と教授』1933年 3～10頁

『欠陥学』1969年 1号83～87頁

ヴィゴツキーは，ロシアにおいては，欠陥学（障害学）者としても名高い。ヴィゴツキーは，障害を障害の程度で区別せずに，現状の生物的な障害を一次障害とした。一次障害を起因とした社会生活や環境因子による弊害を二次障害として区別した。二次障害こそが高次機能の発達不全を生じさせる要因に他ならないとした教育論を提言する。それ故に，障害児も健常児も発達のメガニズムは，原則同じであるとしつつ，違いが生じる場合は，社会環境が問題であると言っている。90年近く前に，斬新奇抜な理論であり，高く評価したい。

## 11. 『寓話・小説・ドラマ その心理学』

年代1916年・1925年，判型A3判，246頁，価格2500円

原文 「美的反応の分析」「芸術心理学」

『芸術心理学』1968年 第2版

『芸術心理学』の中心的部分を抜粋した書であり，カタルシス（精神浄化）までの過程を寓話・小説・ドラマにおいて構造分析をしている。

## 12. 『心理学の危機』

年代1930年，判型，A4判，232頁，価格2266円（本体2200円）

原文 『心理学の理論と歴史の諸問題』

レオンチェフの解説論文付『ヴィゴツキー著作集』1982年 第1巻

ヴィゴツキーの代表作で初期のヴィゴツキー論の科学的心理学の方法論である。

## 13. 『人間行動の発達過程 猿・原始人・子ども』

年代1930年，判型A4判，232頁，価格2200円（本体）

原文 ルリヤ共著『行動の歴史についての試論—猿・原始人・子ども—』

猿から現代人までの心理的進化の過程を，歴史的・個体発生的な観点から論じている。人間と猿の違いは，人間が二つの道具を使用して労働することである。1つは，労働のための道具，2つ目は，精神労働のための道具すなわち言葉である。それ故に，言葉は，ヴィゴツキーの研究の源泉である。

## 14. 『ごっこ遊びの世界—虚構場面の創造と乳幼児の発達』

年代1930年～1931年，判型四六判，292頁，価格2500円

原文 レオンチェフ他6名共著

ヴィゴツキーの論文は「子どもの心理発達における遊びとその役割」

『心理学の諸問題』1966年 第6号

ヴィゴツキーは，幼稚園児の遊びは，発達の主導路線と主張し，「幼稚園児にも最近接領域」を創出すると言っている。遊びを通した，虚構場面の創造を論じる。

## 15. 『子どもの想像力と創造』

年代前掲7，判型前掲7，186頁，価格700円

原文 『子どもの想像力と創造』

1992年初版であるが，翻訳内容については，前掲7と同一であり装丁が異なる。

## 16. 『子どもの心はつくられる・ヴィゴツキー心理学講義』

年代1932年，判型菊判，171頁，価格2600円（税抜き）

原文 レニングラード教育大学で行った連続講義の速記録である。

第四話「情動。子どもの情動はどのように発達するか」

『心理学の諸問題』1959年 第3号

レニングラード教育大学で子どもの「知覚」「記憶」「思考」「情動」「想像」「意志」以上6つのテーマで行われた6回の連続講義の記録集である。学説史の概略説明を検討しつつ、「心理システム」「記憶と思考の相互関係」などの基本的な独自の思考を論じる。

## 17. 『新訳版思考と言語』

年代1930年，判型菊判，330頁，価格3000円（税抜き）

原文 『思考と言語』

前掲1『思考と言語』の二巻が一冊にまとめられ、一部邦訳が新しく書き換えられた。

## 18. 『普及版子どもの心はつくられる・ヴィゴツキー心理学講義』

年代前掲16の普及版，判型菊判，176頁，価格2600円（税抜き）

原文 前掲16

邦訳が新しく書き換えられた。

## 19. 『新児童心理学講義』

年代1933年～1934年，判型菊判，262頁，価格2600円（税抜き）

原文 「児童（年齢）心理学の諸問題」『児童心理学講義』1972年

「児童（年齢）心理学の諸問題」『ヴィゴツキー著作集』1984年 第6巻

「子どもの発達における道具と記号」『ヴィゴツキー著作集』

新生児から7歳までの発達の諸問題・子どもの「道具と記号」の発達と役割を論じた書籍である。

## 20. 『新訳版子どもの想像力と創造』

年代前掲7，判型菊判，176頁，価格2600円（税抜き）

原文 前掲7

掲載されている児童画は、前掲7・16同一である。たくさんの人々に読まれている評価の高い書籍である。

## 21. 『「発達の最近接領域」の理論—教授・学習過程における子どもの発達』

年代1928年，判型A5判，227頁，価格2300円（税抜き）

原文 『教授・学習過程における子どもの知的発達』国立学術教育出版 1935年

独創的な「発達の最近接領域」を中心に二カ国語教育についての実験や書きことば前史が論じられている貴重な書籍である。

## 22. 『ヴィゴツキー思春期の心理学』

年代1930年，判型菊判，330頁，価格3000円（税抜き）

原文 『思春期の児童学（抄本）』1部・2部

『ヴィゴツキー著作集』1984年 第4巻

思春期における性的成熟の時代に複合的思考から、概念的思考に移行完成する発達過程と高度精神機能の発達と崩壊を論じている。

### 23. 『ヴィゴツキー教育心理学講義』

年代1930年，判型菊判，332頁，価格3000円（税抜き）

原文 『教育心理学講義』

ヴィゴツキーのゴメリ市師範学校での教師の経験から心理学者として「教育過程の科学的理解」に関する実践の書籍である。著者柴田義松は、二一世紀激動の時代に入ったわが国の教育界に一石を投じることになるだろうと解説している。

### 24. 『文化的—歴史的的精神発達の理論』

年代1930～1931，判型菊判，406頁，価格3200円（税抜き）

原文 『高次精神機能の発達史』

前半部分は，前掲4『精神発達の理論』改訳版，後半部分は，精神機能の理論体系の書籍である。

### 25. 『記号としての文化 発達心理学と芸術心理学』

年代1925年・1930年，判型四六判，348頁，価格4000円（税抜き）

原文 「子どもの発達における道具と記号」全文

『ヴィゴツキー選集』1984年 第6巻

『芸術心理学（第三版）』第2部の全文 1986年

前半部分は，子どもは言葉を媒介として使用し，高次精神機能が発達する「心理システム」について書かれている。後半部分は，フォルマリズム・主知主義を批判しつつ，芸術は個人の枠ではなく，社会的な大きな枠での説明が必要であると論じている。

### 26. 『ヴィゴツキー障害児発達・教育論集』

年代以下に記載，菊判，272頁，価格3000円（税抜き）

原文 「現代障害学の基本問題」

『ヴィゴツキー選集』第5巻，モスクワ大学紀要 1929年 1号

「障害児の発達と教育に関する学説」発表年月日不明

「障害児の心理学と教育学」

『盲・聾啞・知的障害児の心理学と教育学によせて』1924年

「障害児教育学の原理」『国民教育』1925年 1月号

「知的障害の問題」『知恵遅れの問題』1935年

「知的障害児の発達と補償の問題」養護学校従業員会議での報告 1931年5月23日

「障害児の発達要因としての集団」『障害児の諸問題』1931年 112号

「重度障害児の教育」『重度障害児の教育と教授』1932年

「困難を抱えた子どもの発達診断と児童学的臨床」



『困難を抱えた子どもの児童学の諸問題』1935年

およそ90年近く前に、ヴィゴツキーは、「障害により発達が複雑になった子どもは、同年輩の健常児より、単により少ししか発達しないのではなく、異なる発達の仕方をする」と言っている。障害児についての学説・補償・教育・諸問題・児童学の理論と障害に関するヴィゴツキーの研究理論が論じられている9論文を翻訳した論集である。

**27. 『最後の手稿 情動の理論—心身をめぐるデカルト、スピノザとの対話』**

年代1931年～1933年、判型A5判、387頁、価格3200円（税抜き）

原文 「情動にかんする学説 — 歴史的-心理学的研究」

『ヴィゴツキー著作集』1984年 第6巻

ジェームズ-ランゲ説と学説批判・デカルトの二元論的形而上学と情念論及び情動研究の方法論的問題を論じている。

**28. 『新訳版芸術心理学』**

年代前掲6、判型菊判、369頁、価格3000円（税抜き）

原文 前掲6

邦訳が新しく書き換えられた。

**29. 『ヴィゴツキー心理学論集』**

年代以下に記載、判型A5判、300頁、価格2700円（税抜き）

原文 「心理システムについて」「困難をかかえた子ども」

『ヴィゴツキー著作集』1984年 第6巻

「意識の問題」『文法の心理学』1968年

「心理と意識と無識」『一般心理学の基礎知識』1930年

「ゲシュタルト心理学における発達の問題—批判的検討」『児童学』1928年

「子どもの文化的発達の問題」『児童学』1928年

「子どもの性格の動態に関する問題」『児童学と教育』1928年

「才能の問題と教育の個人的目的」『教育心理学講義』1926年

「練習と疲労」『教育心理学講義』1926年

「障害と補償」『知能・視覚・聴覚障害』1927年

「困難をかかえた子どもの発達とその研究（テーゼ）」

『ソ連邦児童学の基本問題』1928年

「人間の具体的心理学」モスクワ大学通報『心理学』1986年

ヴィゴツキー未邦訳論文12本の論集でヴィゴツキーの理論の大半が論じられている。

**30. 『「人格発達」の理論 子どもの具体心理学』**

年代1931年～1934年、判型A5判、300頁、価格2700円（税抜き）

原文 「児童心理学講義」2001年

「子供の発達心理学」1993年

「人間の発達心理学」2003年

レニングラード教育大学で行った連続講義の速記録である。

新生児期から、学齢期までの発達過程を「児童学の原理」「年齢の諸問題」「人格発達論」から、論じた記録集である。

#### IV. まとめ

ヴィゴツキーの主著『思考と言語』が日本とアメリカにおいて、出版されてから半世紀が過ぎた。現在、日本においては30冊（改訂版含む）のヴィゴツキーの邦訳書が出版されている。

しかしながら、ロシア語から日本語に翻訳することは、ハードな作業であるが故に、少数の限られた翻訳者だけによって邦訳書が、発行されている。また、邦訳書は一般的な書籍に比べ書店で目にする機会が少ないため、ヴィゴツキーの名前すら人々には、それほどは知られていないのが現状である。

天才ヴィゴツキーの行った研究は、今でも独創的で、新鮮ささえも感じられ今後も幅広く活用され続けられると思われる。

より多くの人々に、ヴィゴツキーの研究の役割と意義について、正確に知っていただくために、ヴィゴツキーの原著の全ての邦訳書が、出版されることを強く期待したい。